

防災ガイド BOOK (震災対応編)

あなたの事業所はどんなところにありますか？

万一の災害に対応して事前の備え及び災害時の行動について

このガイドブックを有効に活用しましょう

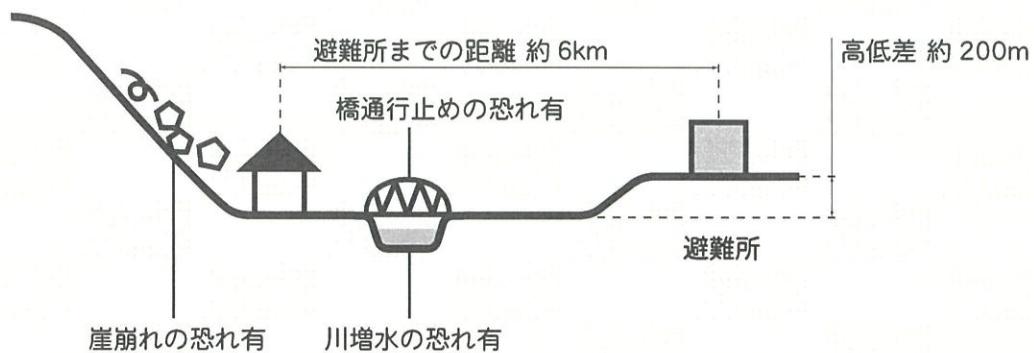
全国グループホーム団体連合会

平成25年11月発行

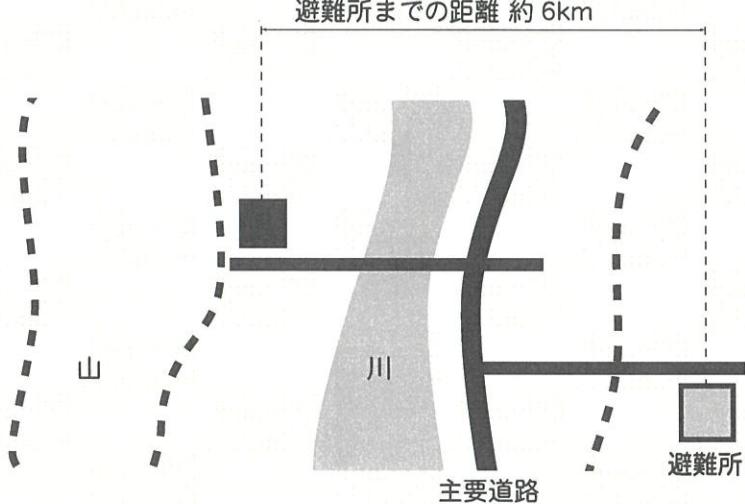
WORK1 あなたの事業所はどんなところにありますか？

あなたの事業所の特徴をしりましょう。(例 2)

[断面図 例] 山沿いに事業所がある場合



[平面図 例]



	数値	備考
川までの距離	約 1.5km	堤防整備済みだが、増水の可能性がある。
平常時の川の水位	約 0.5m	2.5m 上昇で橋通行止め。3.1m 上昇で氾濫危険水位。
避難所までの高低差	約 200m	地形のアップダウンにより移動に時間がかかる。
崖崩れ予想箇所	2カ所	裏山有り。大雨の時に崖崩れに注意。

WORK1 あなたの事業所はどんなところにありますか？

あなたの事業所の図を作成しましょう。(例1、2、3を参考に)

[断面図]

[平面図]

あなたの事業所の特徴を記入しましょう。

	数値	備考

WORK4 被災時はどのように避難しますか？

被災時 責任者	誰が
	どのように
避難場所	避難所名
	住所
	電話番号

2. 人員・組織 緊急時の権限の付与と周知・徹底（誰が、どのように実施しますか？）

3. 交通手段・燃料の確保はどのように行いますか？

「『徒歩・車イス・自動車などの移動手段を事業所の特性に合わせて対応するには…』」

『その場にいる人間が主体的かつ、明確に判断し行動するには…』

《発生当日》

	誰が	どのように把握するか
利用者家族、職員 家族、行政、法人 本部等への連絡		
トイレ対策		
防寒、防暑対策		
食事確保・手配		
一時入所・利用者 増員への対応		
地域ニーズの対応		
問合せ対応		
情報発信		

《発生翌日から》

	誰が	どのように把握するか
必要業務の継続		
ケアの継続		
職員の健康管理		
ボランティア受入		
関係団体・他事業所と の協力		
一時入所・利用者増員 への対応		

WORK8 県内外の連絡体制を準備しておきましょう。

1. 県内連絡体制

2. 県外(広域)連絡体制